

課題研究 平塚市総合交通計画等の改訂に向けた検討について

前回の協議会で示された「平塚市総合交通計画等の改訂」に関連して、委員から課題を提供いただきましたので、意見交換いたします。

【課題内容】

- ① 隣接する市町村のウェブサイトを参照したところ、伊勢原市においては本年6月に『総合車両所の移転計画地周辺における「新たな地域拠点」の創出に向けたまちづくりのイメージに関する中間とりまとめ』(※①)が公表されており、スマート新駅の検討が記載されておりました。

平塚北部地域からは小田急利用のバス利用者も多い(特に岡崎地区等)と思われます。スマート新駅検討の動向見据えながらの検討も必要になってくるかと思えます。

「総合交通計画」での計画図上は小田急沿線各駅へは矢印表示だけのように見受けられます。国、県、神奈中等の皆さんが協議会メンバーですので隣接市の計画も視野に入れておくのも重要かと思えます。

- ② 関連して、JR 平塚駅ならびに駅前広場についても新技術の実装化ならびに「リビング」に向けた環境整備(※②)を見据えると、交通実態(駅出口乗降、バス乗降、タクシー乗降、送迎車両ならびにそれらの歩行動線)を把握し、交通機能空間としての必要な規模、広場空間としての活用規模について定量的データをもとに具体化検討を進めていくことが重要だと考えます。

以上、次年度以降の検討内容について、わかる範囲でお伺いします。

あわせて、昨今のシーテラス問題、神奈川大学跡地問題等、市民レベルの合意のプロセスプランニングで齟齬が生じないように期待いたします。

～参考資料(事務局からの補足)～

※① 総合車両所の移転計画地周辺における『新たな地域拠点』の創出に向けたまちづくりのイメージ(令和7年3月中旬とりまとめ)【伊勢原市資料から一部抜粋】

総合車両所の移転計画地周辺における『新たな地域拠点』の創出に向けたまちづくりのイメージ (令和7年3月中旬とりまとめ) 別紙(1)

伊勢原市と小田急電鉄が令和5年3月に締結した「持続可能なまちづくりを推進する連携協定」に基づき、「都市計画道路田中笠原線整備事業」と「新たな総合車両所建設計画」を契機として、新たな産業都市輪の形成やスマート新駅の検討など、『新たな地域拠点』の創出に向けた持続可能なまちづくりの検討を進めています。

(1) 『新たな地域拠点』の位置づけ

市内には中心拠点(伊勢原駅周辺)と地域拠点(東甲府駅周辺)の2つの既存拠点があります。伊勢原市都市マスタープラン(令和7年3月改定)では、『新たな総合車両所』の建設計画に伴い、周辺地域の現状や将来的ニーズの拡大などの課題に対応するための『新たな地域拠点』を位置づけ、新しいまちづくりの検討を進めています。

『新たな地域拠点』の創出にあたっては、それぞれの拠点が失われないよう、各拠点の強みを活かした役割分担とともに、市街地や地域資源がコンパクトにまとまった都市構造を維持し、各拠点が相互に連携した持続的な発展を目指します。

新たな地域拠点
(新たな総合車両所周辺)

市全体の持続的な発展に寄与する次世代型のモデルとなる新しい地域拠点
市内の交通網の拠点となる新しい交通結節点

中心拠点
(伊勢原駅周辺)

伊勢原駅や商業機能、公共機能を有する市全体の中心となる拠点
伊勢原駅から大山等へ向かうための観光・交通の拠点

地域拠点
(東甲府駅周辺)

周辺市街地での都市活動や日常生活を支えるための地域の拠点
周辺企業の就業が促進するための拠点となる拠点

【都市構造のイメージ図】

【資料】伊勢原市都市マスタープラン

各拠点ごとに位置づけを差別化することで、既存の産業と既存機能の維持を図ります。

(2) 『新たな総合車両所』周辺の概要

『新たな総合車両所』の周辺は、工業団地や農地、住宅地などが広がる地域です。

また、その北部では、東名高速道路の「伊勢原大山インターチェンジ」の開通に伴う新たな産業集積も予定されています。

(3) 『新たな地域拠点』におけるまちづくりの方向性

【地域経済の活性化に寄与する能力】

- 産業・観光の活性化に寄与する能力
- 住宅地における水害リスク等の自然災害への対応が必要。
- 教育や高齢者支援など、居住に向けた地域福祉等への対応が必要。
- 高齢化に伴う需要に備えた、公共交通手段の確保が必要。
- 就業や居住者の移動ニーズに対応したモビリティの確保が必要。
- 産業立地に伴う環境負荷の低減や地味への配慮が必要。
- 暮らしの変化に対応した生活機能の充実と交通結節点の構築が必要。
- 市全体の発展に寄与する先進的な取り組みの実践が必要。

【地域経済の活性化に寄与する能力】

- 工業団地とのネットワークの強化により、企業者が働きやすい、移動しやすい環境が求められる。
- 農業や観光振興などの地域経済を支える力となる産業を生み出すことが求められます。

【周辺地域における安心の暮らし】

- 住民、特に周辺地域の子育て世代や高齢者が安心して暮らすことのできる居住環境の維持が求められます。
- 新たな就業や居住者の日常的な移動や暮らしを支えるための地域拠点の創出が求められます。

【新たな地域拠点におけるまちづくりの方向性】

「方向性1」 新たな活力の創出
「方向性2」 安心の暮らしの実現

多様な分野が連携した「スマート」な地域拠点づくり
人が思う新たな価値 体験する新たな学び 挑戦する新たな挑戦

産業団地の連携が 市内従業員の移動支援
誰もが安心して快適に 暮らせる拠点機能の充実

「まちづくりの効果」 「活力のネットワーク」の強化
「まちづくりの効果」 定住促進、持続可能性の強化

市全体への効果の波及

※ 各課題に対応するための『新たな地域拠点』におけるまちづくりの方向性として、『新たな活力の創出』と『安心の暮らしの実現』を位置づけます。

※ その中心となる地域拠点の創出にあたっては、市全体への波及効果を見据えた多様な分野の連携による「先進的(スマート)な取り組み」を推進します。

(4) 『新たな地域拠点』の将来イメージ

※ このイメージ図は、新たな地域拠点の創出に向けた研究会等での検討内容を基に作成したものであり、配置や機能、実施事業などについて確定したものではありません。

多様な分野が連携し、拠点機能を充実させるための「3つのテーマ」

- 1 居住者や就業者などの「人が思う」新たな価値
 - ▶ 例) 暮らしを支える生活機能、日常的に人が集い交流を生む施設 などを検討
- 2 産業の発展により「体験する」新たな学び
 - ▶ 例) 地域の産業を学ぶ施設見学、地域の魅力を知る情報発信 などを検討
- 3 最先端技術を活用して「挑戦する」新たな実践
 - ▶ 例) 次世代型の新たな交通結節機能、企業等による実証実験 などの検討

近隣で暮らす 居住者 にとっては-

- 拠点機能の充実により、高齢者や子育て世代が安心して暮らすことができる。
- 『新たな地域拠点』の周辺で働くことで、職住近接の暮らしができる。
- 交通結節点や新たな生活モビリティサービスなどを利用して、自宅用車に頼らずに多方面へアクセスすることができる。
- 地域学習として、新たな総合車両所などの最先端の産業施設を見学・体験することができる。

【地域住民の意向】^{※1}

総合車両所の移転計画地周辺のまちづくりに対し、関心があるのは何ですか。(複数選択)

関心事	関心がある	関心がない
就業や生活機能の充実、移動のしやすさ	80.5%	19.5%
自然環境の保全	67.3%	32.7%
交通結節点や新たな生活モビリティサービスなどの導入	64.9%	35.1%
地域の産業や観光資源の活用による学びや体験	54.2%	45.8%
地域の魅力を知り、地域資源を活用した観光や体験	45.2%	54.8%
最先端技術を活用した新たな交通結節機能	38.7%	61.3%

※1: 資料: 伊勢原市総合車両所の移転計画地周辺のまちづくりに関するアンケート調査結果(調査期間: 令和7年1月下旬~2月下旬)

※2: 「生活モビリティサービス」とは、日常生活の移動を支えるため、自動運転技術などを活用して、地域や個人に合わせた移動手段を提供する仕組みです。

※3: 「スマート農業」とは、先進的な農業技術を活用して、省力化や生産性の向上を図り、持続可能な農業を実現することです。

※4: 「スマート農業」とは、AIやドローンなどの最先端技術を活用し、農作物を育てることで、農家の負担軽減や生産性の向上を図る取り組みです。

※5: 「農旅連携」とは、鉄道と農業が連携し、地産の農産物を駅で販売したり、貨物輸送に鉄道を活用したりして、農業振興や地域活性化を目指す取り組みです。

工場団地や企業の 従業員 にとっては-

- 交通結節点や「活力のネットワーク」を担う新たな移動支援を利用して、工場への通勤や公共交通の乗り換えがスムーズに行うことができる。
- 拠点内の快適な空間環境などで、自由時間を過ごすことができる。
- マイクロモビリティなどを使って、拠点内を自由に移動することができる。

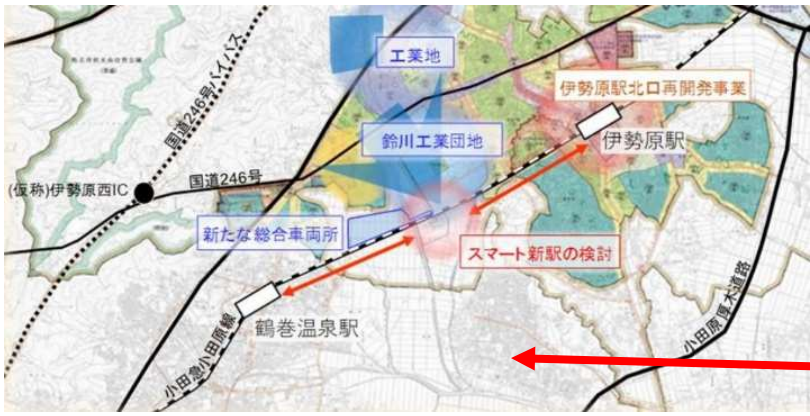
地域内に立地する 企業、事業者 にとっては-

- 地域拠点の公共空間を使って、次世代型のモビリティや社会用サービスなどの実証実験などに挑戦できる。
- 実証実験や研究開発の実践を通して、企業のPRや信頼性、技術力などを発信することができる。
- 最先端技術を活用して、『新たな地域拠点』の利用者などにデータを収集することができる。

地域を訪れる 来訪者 にとっては-

- 観光や地域学習として、新たな総合車両所などの最先端の産業施設を見学・体験することができる。
- 自然と触れ合い、気軽に農業を体験することができる。
- 自動運転車両などの新たな移動支援を利用して、効率的に各種施設やサービスを体験することができる。

(参考)平塚市との位置関係 令和5年3月8日 伊勢原市・小田急電鉄プレスリリースを元に加工



平塚市岡崎地区

※② 平塚駅周辺地区将来構想(令和7年3月策定)から一部抜粋

《まちづくりのコンセプト》

平塚駅周辺地区をみんなのリビングに

～充実した日々の中にときめきを感じられる
それぞれが居心地の良いまちづくり～

住む人、働く人、遊びに来る人、事業を始める人など、誰もがそれぞれのお気に入りの空間や体験を見つけることができるように、平塚駅周辺地区を家の中で家族が集まり、くつろぎ、様々な目的に合わせて過ごす「リビング」に見立てます。

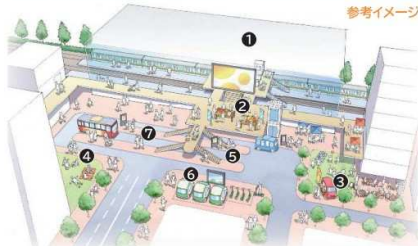
平塚駅周辺地区では、市民、事業者、行政が連携して多様な活動、交流が展開される空間や仕組みを地域資源※や多様な人材、新技術などを活用して創出することで、様々な人が快適に安心して過ごし、充実した日々の中にときめきを感じられる居心地の良い「リビング」のようなまちを目指していきます。



《駅前広場の将来像》

■北口駅前広場の将来像

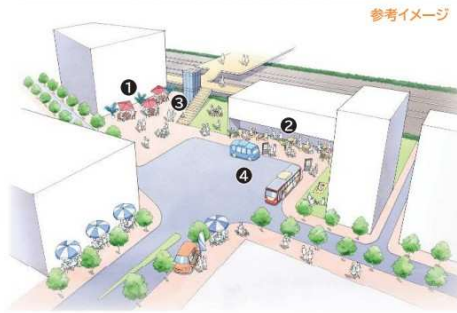
様々な公共交通へ乗り換えやすく
多様な活動と平塚の魅力に出会える拠点



- ①平塚の魅力を感じられる機能の検討 方針1
 - ②余暇活動など様々な活動を行える場づくり 方針2
 - ③店舗と一体的な活用による滞留・交流空間の創出 方針2
 - ④沿道店舗と公共空間の一体的な活用のための建物更新 方針4
 - ⑤地下空間の有効活用を検討 方針6
 - ⑥最新技術に対応した多様な交通に乗り換えられるハブ機能の整備 方針3
 - ⑦自動運転など最新技術に対応したロータリー整備 方針7
- 方針 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

■南口駅前広場の将来像

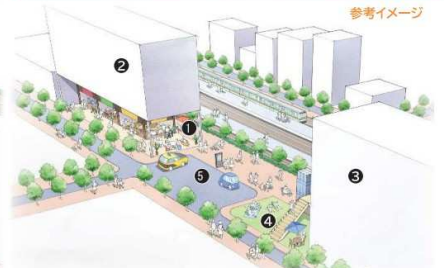
様々な公共交通へ乗り換えやすく
海を感じる交流拠点



- ①海が感じられるイベントの実施 方針2
- ②多くの人が集まる機能を誘導 方針3
- ③沿道店舗と公共空間の一体的な活用のための建物更新 方針4
- ④自動運転など最新技術に対応したロータリー整備 方針7

■西口駅前広場の将来像

より快適に電車に乗り換えられる
平塚の活力を感じる新しい拠点



- ①店舗と一体的な活用による滞留・交流空間の創出 方針2
- ②多くの人が集まる機能を誘導 方針3
- ③近隣の民間建物と連携した再整備 方針4
- ④沿道店舗と公共空間の一体的な活用のための建物更新 方針4
- ⑤自動運転など最新技術に対応したロータリー整備 方針7

方針 対応するまちづくりの方針を示しています。なお、複数の方針が対応している場合は、代表的な方針を示しています。また、地区全体に関わる方針は記載せず、当該エリアの特徴的な方針のみ示しています。

《フラッグシッププロジェクト》

プロジェクト	短期	中期	長期
平塚駅北口駅前広場周辺	関係機関などとの調整 社会実験の実施 まちづくりのガイドライン作成	整備内容の計画 設計 整備	運用 まちづくりの活動の実施
平塚駅西口駅前広場周辺	関係機関などとの調整 社会実験の実施 まちづくりのガイドライン作成	整備内容の計画 設計 整備	運用 まちづくりの活動の実施
平塚駅南口駅前広場周辺	設計 自動運転バスなどに対応した整備 自動運転実証実験・運行の本格化 まちづくりのガイドライン作成	運用 関係機関などとの調整 整備内容の計画 設計 整備 まちづくりの活動の実施	運用 まちづくりの活動の実施
紅谷町駐車場周辺	あり方の検討 社会実験の実施 まちづくりのガイドライン作成	検討を踏まえた整備内容の検討 設計 整備	運用 まちづくりの活動の実施

市主導 地域・民間主導 官民連携 ※凡例は、各取組みをけん引していく主体を示しています。